

## 第 1 回那覇空港技術検討委員会 議事概要

## 1. 開催日時

平成 20 年 9 月 22 日（月） 13 : 00 ~ 16 : 20

## 2. 開催場所

沖縄県水産会館

## 3. 出席者

## (1) 委員

小田 勝也	国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部長
香村 眞徳	琉球大学名誉教授
遠藤弘太郎	(佐藤委員代理) 定期航空協会企画小委員会委員
島田章一郎	那覇空港ビルディング株式会社常務取締役
津嘉山正光	琉球大学名誉教授
辻 安治	国土交通省国土技術政策総合研究所空港研究部長
轟 朝幸	日本大学理工学部社会交通工学科教授
東 良和	沖縄経済同友会観光委員長
福島 駿介	琉球大学名誉教授
宮城 邦治	沖縄国際大学総合文化学部教授
屋井 鉄雄	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授

## (2) 関係者

大越 康史	国土交通省航空局空港部計画課空港計画企画官
傍士 清志	国土交通省大阪航空局空港部長
菅野 顕	国土交通省大阪航空局那覇空港事務所長
上里 至	沖縄県企画部企画調整統括監
吉永 清人	内閣府沖縄総合事務局開発建設部長

## 4. 主な議題

- (1) 委員長及び委員長代理の選出
- (2) 想段階及び技術検討委員会の進め方について
- (3) 総合的な調査のとりまとめについて
- (4) 滑走路長および滑走路処理容量の検討について
- (5) 航空需要予測の精査について
- (6) 滑走路増設案の検討について
- (7) 評価項目の設定について
- (8) 複数案の比較検討について

## 5. 議事概要

- (1) 委員の互選により屋井鉄雄委員が委員長に選任された後、津嘉山正光委員が委員長代理に選任された。また、事務局より、第 1 回那覇空港構想・施設計画検討協議会の審議内容の概要及び 19 日（金）に豊見城市長が那覇空港の拡張整

備について発表した声明の内容を報告すると共に、議事次第の議事に沿って各資料を説明し、その後、質疑応答がなされた。

- (2) 本委員会における審議内容は、概ね以下のとおり。
  - (イ) 構想段階は既に始まっており、今後の構想段階P I（パブリック・インボルブメント）を含めた計画プロセスの概略スケジュールについて早急に示す必要がある。
  - (ロ) 滑走路処理容量については、滑走路増設後に実際に行われる様々な運用方式とは別に計算上の数値として理解しておく必要がある。一定の単純化した前提条件に基づいて、代替案間の比較が行える程度の数値が算出されていれば良い。但し、算定の手法はわかりやすく示す必要はある。
  - (ハ) 最新の動向を反映して見直しを行った需要予測については、予測値以上に増加が期待されるという意見や、今後需要低下のリスクもあり得ることなどが意見交換されたが、定量的モデルに反映できない要因の存在を明示した上で、最新の方法及びモデルによって行うことが確認された。
  - (ニ) 昨年度まで実施してきた総合的な調査段階における滑走路長及び滑走路端安全区域長、連絡誘導路の箇所数、展開用地等の前提条件の見直し。
- (3) 本委員会にて了承を得られた内容は、以下のとおり。
  - (イ) 技術検討委員会の進め方について。
    - ・ 構想段階P I前に滑走路増設案を1つに絞り込むことを前提とはしないこと。
    - ・ 今後のスケジュールの公開を前提に、配付資料3「構想段階及び技術検討委員会の進め方」を分かり易く修正すること。
  - (ロ) 滑走路長及び滑走路処理容量について。
  - (ハ) 今後の構想段階の検討にあたり必要となる滑走路端安全区域長、連絡誘導路の箇所数、展開用地の面積等の前提条件（諸元）の絞込みについて。
- (4) その他、主な意見は以下のとおり。
  - (イ) 構想段階を今後どのように進めていくのかスケジュールを提示すること。
  - (ロ) 滑走路増設案を検討する際には、環境影響、社会影響を十分に配慮すること。  
なお、自然環境の検討に関しては、潮流の影響だけではなく波浪の影響について検討を行うこと。また、環境関連の資料についても、専門的になっており分かりづらいため、一般の方が理解できるようなまとめ方に工夫すること。
  - (ハ) 高速脱出誘導路や連絡誘導路等の基本施設の計画については、航空機の利便性及び運用面についても、十分に考慮すべきであること。
  - (ニ) 次回の委員会資料に関し、総合評価については、議論をしやすいような内容にする必要があること。

## 第2回那覇空港技術検討委員会 議事概要

### 1. 開催日時

平成20年10月24日（金）15:00～17:30

### 2. 開催場所

沖縄県水産会館

### 3. 出席者

#### (1) 委員

大森 保	琉球大学理学部教授
小田 勝也	国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部長
香村 眞徳	琉球大学名誉教授
遠藤弘太郎	(佐藤委員代理) 定期航空協会企画小委員会委員
島田章一郎	那覇空港ビルディング株式会社常務取締役
津嘉山正光	琉球大学名誉教授
辻 安治	国土交通省国土技術政策総合研究所空港研究部長
轟 朝幸	日本大学理工学部社会交通工学科教授
東 良和	沖縄経済同友会観光委員長
福島 駿介	琉球大学名誉教授
宮城 邦治	沖縄国際大学総合文化学部教授
屋井 鉄雄	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授

#### (2) 関係者

大越 康史	国土交通省航空局空港部計画課空港計画企画官
傍士 清志	国土交通省大阪航空局空港部長
菅野 顕	国土交通省大阪航空局那覇空港事務所長
上原 良幸	沖縄県企画部長
吉永 清人	内閣府沖縄総合事務局開発建設部長
津田 修一	沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所長

### 4. 主な議題

- (1) 第1回那覇空港技術検討委員会の指摘事項と対応案について
- (2) 航空需要予測の精査について
- (3) 費用便益分析の算定方法について
- (4) 滑走路増設案の検討について
- (5) 評価項目の設定について
- (6) 複数案の比較検討について

### 5. 議事概要

- (1) 事務局より、議事次第の議事に沿って各資料を説明すると共に、10月21日に沖縄県が主催して開催した那覇空港構想段階地域連絡会議（構成メンバーは、沖縄県及び那覇空港に密接に関係のある那覇市、豊見城市、糸満市）の概要が報告された。同会議における主な意見として、各市より、空港能力の確保、騒音の低減、歴史的価値の保全等にかかる意見があったが、特に、豊見城市より、瀬長島の改変のある滑走路増設案は容認できない旨の発言があったことが紹介された。
- (2) 総合的な調査PIステップ3で寄せられた現滑走路隣接案に対する反対意見

- 及び総合的な調査P I ステップ3以降の地元からの意見表明等が紹介され、その後、質疑応答がなされた。
- (3) なお、質疑応答の冒頭に、沖縄県企画部長より以下の発言があり、これを受けて、屋井委員長より、今後、国と沖縄県とで、関係市町村とも連携をとって進めて欲しい旨の発言があった。
- (イ) 21日的那覇空港構想段階地域連絡会議における関係市の意見表明、23日的那覇空港拡張整備促進連盟による「那覇空港の拡張に整備について」の声明（別紙参照）について、沖縄県としては重く受けとめる必要があると考える。
  - (ロ) また、騒音影響低減の観点から増設滑走路を沖側に出す必要がある。
  - (ハ) 瀬長島については、12箇所もの拝所があり、島に対する信仰はあつい。大嶺崎についても、制限区域にも係わらず現状でも昔住んでおられた方々が通って拝みを行っている。
  - (ニ) 当該事業は、沖縄県の戦後最大のプロジェクトと思っており、アジア諸国等と肩を並べるような空港となるよう期待している。
- (4) 本委員会にて了承が得られた内容は、以下のとおり。
- (イ) 資料1～5の内容が了承された。
  - (ロ) 資料6の複数案の比較検討について、評価項目毎の評価については了承が得られた。ただし、記載内容や表現の方法については、構想段階P Iで提示する上で、よりわかりやすく工夫する必要があるとされた。一方、評価項目の総合評価について、本日の委員会では、文言の精査までは検討しないこととなった。
  - (ハ) 210m案に対しては、総合的な調査P I ステップ3から今日に至るまで、県民や関係市等より、瀬長島の歴史的価値をないがしろにするもの等の理由で反対する意見が多いことが改めて示されたことから、委員会としても同案は地元にとって受け入れがたいものであると認識し、今後の技術検討から除外することが了承された。
  - (ニ) 構想段階P Iでは、複数の代替案（最低2案）を提示して意見を求めることが基本的な考え方であることが確認された。
  - (ホ) 本委員会としては、1,310m案及び930m案の2案を那覇空港構想・施設計画検討協議会に提出することが了承された。但し、930m案については、総合的な調査段階から本会合までに、滑走長等の条件が変更されたため、事務局で更に検討を行うこととされた。また、第2回委員会までの審議経過からは、各案の優劣は付けずに複数案を同協議会に提示することが妥当とされた。
  - (ヘ) 騒音については、構想段階P I用パンフレットに掲載することが確認された。
- (5) その他、主な意見は以下のとおり。
- (イ) 210m案は、現滑走路が閉鎖した場合、悪天候時に使用できずリダンダンシーの面から好ましくないと考える。
  - (ロ) サンゴ礁消失のデメリットについて、サンゴ礁の景観を入れることができないかを検討して欲しい。また、増設滑走路と現滑走路に囲まれる閉鎖性水域について、可能であれば、水質の観点から水の交換率についても検討して欲しい。
  - (ハ) 930m案は、1,310m案に比べて優れている点が少なく、1,310m案と並べて構想段階P Iに示す案としては力不足の感はある。ただし、地上走行距離やサンゴ消失面積等では優位であることから、地上走行距離のメリット等を増す案を、瀬長島を改変しない前提で更に検討し、対案として意見を聞くことが妥当であるとされた。
  - (ニ) 資料6の各項目に記載されている文章が長いため、理解しにくいので、できるだけ短くし、理解しやすいようにして欲しい。

## 第1回那覇空港構想段階P I 評価委員会 議事概要

### 1. 開催日時

平成20年10月3日（金）14：00～15：15

### 2. 開催場所

内閣府沖縄総合事務局 2階共用会議室

### 3. 出席者

上間	清	琉球大学名誉教授
大城	浩	弁護士
崎山	律子	フリージャーナリスト
堤	純一郎	琉球大学工学部環境建設工学科教授
廻	洋子	淑徳大学国際コミュニケーション学部教授

### 4. 主な議題

- (1) これまでの経緯について
- (2) 那覇空港構想段階P I 実施計画（案）について
- (3) 那覇空港構想段階の進め方について

### 5. 議事概要

- (1) 委員の互選により上間清委員が委員長に選任された後、廻洋子委員が委員長代理に選任された。事務局より、議事次第の議事に沿って各資料を説明し、その後、質疑応答がなされた。
- (2) 本委員会にて了承を得られた内容は、以下のとおり。
  - (イ) 構想段階P I 実施計画（案）の基本方針について
  - (ロ) 那覇空港構想段階検討の進め方について
  - (ハ) 構想段階P I 実施計画（案）の基本方針の文言に関し、「中立・公正」を「公平・公正」を修正することについて
- (3) その他、主な意見は以下のとおり。
  - (イ) これまで実施してきたP I ステップ1～3の意見については、構想段階での検討において、できる限り反映すること。
  - (ロ) 構想段階P I 実施計画（案）の情報提供・意見収集について、各手法の実施回数を記載した方が、実施計画としてより分かりやすい。
  - (ハ) 可能であれば、東京など県外での空港関係者、旅行業者への説明会を実施した方が良いのではないか。
  - (ニ) 構想段階P I を進めるにあたり、今後のスケジュール管理について適切な時間管理を行うことが重要である。
  - (ホ) 会議では、技術検討委員会での検討状況及び今回のプロジェクトと関係がある報道資料等を参考として情報提供して欲しい。
  - (ヘ) 現ターミナルの整備計画について、県民の関心も高いことから、いずれかの時期に説明を行なう必要があるのではないか。